

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272100959		
法人名	有限会社 三英会		
事業所名	グループホーム にこにこ		
所在地	鯉ヶ沢町大字北浮田町字平野206-4		
自己評価作成日	平成28年7月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成28年9月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>認知症に対する理解と介護方法について、日々、ディスカッションし、対応の工夫に努めている。 看取り介護に力を注いでいる。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>2つのユニットの職員は日頃から連携し、認知症に対する理解を深めており、医療関係者や家族と密に連携をとりながら、看取りの介護にも力を注いでいる。 また、全職員が常に振り返りをしながら理念の実践に努めており、介護度が中・重度の方が多いものの、利用者や家族が安心して生活できるよう、日々の支援に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目につく場所に理念を貼っている。また、職員は利用者との関わりに反映できるように努力している。	ホーム独自の理念を掲げ、ホーム内の目につきやすい場所に掲示している。また、朝礼や申し送り時等、必要に応じて話題にしており、職員一人ひとりが、自分が重点的に目指すものをしっかり捉え、日々、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	7月～8月に納涼祭を行い、地域住民と交流を図っている。	地域との関わりを大切しており、利用者の散歩時は声をかけ合ったり、ホームの納涼祭の際はチラシを配布して、たくさんの参加を得ている。また、ホーム敷地内に町内のゴミ置き場を設置する等、地域貢献も考えながら交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ゴミの収集場所を地域に提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を行い、近況報告及び意見を聞き、サービスの質の向上につなげている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、利用者家族には全家庭に会議の案内を出している。また、ホーム周辺は街灯が少なく、災害時に不安だとの意見が出されたことから、街灯の設置に至る等、会議での提案等が改善につながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場職員に参加してもらっている。いろいろな情報交換をしている。	運営推進会議には役場の担当課職員が欠かさず出席しており、情報交換を行っている。また、必要に応じて、役場に向いて疑問点等を確認する等、連携を図りながら課題解決に向けて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事例によっては両手ミトンを使用するが、家族にも説明をして理解してもらっている。同意書作成。 玄関、居室等は施錠しない。	学習を重ね、全職員が身体拘束の内容や弊害を理解できるように取り組んでいる。バルーンカテーテルを抜く等、危険な行為の時はミトンを使用したり、暴言暴力等で他の利用者に危害が及ぶような時は医師の指示を仰ぎ、対応している他、マニュアルに沿って、家族への説明や同意、記録に残す体制となっている。また、不穏状態の時は話題を変え、気分転換に散歩したり、ハグして落ち着かせる等、工夫をしながら、身体拘束をしない対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の話をよく聞き、管理者は職員の日々のケアに目を配っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については十分な説明をして、納得してから契約してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時には職員が積極的に意見を聞き、常に検討している。	職員は、家族等の面会時に利用者の暮らしぶり等について情報提供し、どんな些細な事でも気軽に話していただけるよう、積極的に意見を聞いている。また、苦情や意見等が出された場合は話し合い、対応策を検討して改善に努め、運営に反映させる体制となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3ヶ月毎に職員合同会議を開催し、意見を出し合って検討し、解決に結びつけている。毎日、管理者会議で話し合いをしている。	毎日のミーティングや週1回のリーダー会議、3ヶ月に1回の全員参加の合同会議等、職員一人ひとりから意見を聞く機会を設けており、代表者に繋げる仕組みを整え、反映できるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の努力や実績を把握しており、それなりの役割を与え、働きやすい環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に参加し、その内容を他の職員と共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームの集まりを継続している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、家族からの情報を得て計画を作成し、日常のケアに結びつけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時を含めて家族からの情報に基づき、協力関係をつくりながら、計画的に進めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者家族の要望を中心に進めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる範囲内で作業を手伝ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との話し合いを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人、親友の関係を継続している。	日々のコミュニケーションの中から、利用者の馴染みの人や場所の把握に努めており、これまでの交流を継続できるよう、友人・知人等の面会を積極的に受け入れている。また、希望に応じて、馴染みの場所に出かける支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いを尊重し合えるように声かけ等をし、利用者同士が良い関係を保てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所になった時に、医療機関へのサマリーの提供、家族の考え等の情報提供をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族との話し合いを大切にしている。	日々のケアを通して、利用者の表情や行動等、一人ひとりの特徴を踏まえ、思いや希望の把握に努めており、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時は家族からの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、職員は話し合いをし、個別ケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状態の変化に伴い、話し合いを行い、家族に報告し、介護計画を立て直している。	介護計画作成時には、できる限り利用者の意見を聞くようにしており、毎日のミーティング等で職員の気づきを話し合い、利用者毎に定期評価を行っている。また、必要に応じて、家族等からの再アセスメント等を反映させ、現状に即した介護計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のミーティングを大切に、ケアプランにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの要望に応じた取り組みをしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパー等で買い物を楽しんでもらいながら、季節を感じてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関を受診してもらっている。 1ヶ月に一度、かかりつけ医に往診してもらっている。	入居時のアセスメントでこれまでの受療状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関への受診を支援している。また、家族等も含めて医療機関との情報交換を行い、利用者に応じて、看取りまで納得が得られる受療に努めている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が勤務しているので、健康管理は充実している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	それぞれの主治医との信頼関係に努め、利用者が安心して治療できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との信頼関係の中で十分な話し合いを持ち、終末期を迎えた時の看取りケアの同意書を作成し、説明している。	重度化や終末期の対応については、看取りケアに力を注いでいることを明確にし、重要事項で説明している。職員は看護師を中心に学習・話し合いを行っており、不安なく対応できるように取り組んでいる。また、早い段階から、家族・医療機関・ホームで話し合いを行って意思統一を図り、尊厳ある終末期ケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応手順を作成している。看護師を中心に、初期対応の話し合いをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署との連携で避難訓練を行っている。	日中・夜間を想定した避難誘導策を作成しており、年2回、利用者と職員が一緒になり、避難時間を測定しながら訓練を行っている。また、災害時の備蓄についても用意している。他、運営推進会議において呼びかけをし、近隣住民との協力体制を整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録やメモの取り扱いに注意している。職員間で互いに注意し合うようにしている。	利用者の要望等は傾聴し、言動は受容する姿勢に努めており、一緒に行動し、利用者が納得できるように努めている。また、全職員で注意し合い、振り返りをしながら、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりとの会話を大事にし、希望を表しやすくできる支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく本人の希望に沿うような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みを聞きながら洋服を選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力を見つけながら、共同作業に努めている。	食事が楽しみなものになるよう、利用者の好みや身体状況に応じて、刻み食やとろみ等を検討し、職員が交代で献立づくりや調理を行っている。また、状況に応じて、利用者と職員と一緒に、下ごしらえや片付けを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節の食材を使い、個々の好みや状態に合わせて調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、状態に合わせて、個々に口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの状態に合わせて、時にはポータブルトイレを使用し、自立支援を行っている。	一人ひとりの身体状況や排泄パターンを観察・記録して、トイレ誘導を行っており、失禁が無くなった事例もある。また、病状により、水分や食事量について検討しながら、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、水分量の設定で予防している。 頑固な便秘は病院との連携の下で処置している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者の高齢化に伴い、週1回の入浴にしているが、一人ひとりの希望に沿うよう支援している。	日々の会話から入浴習慣や好みを把握しており、利用者の意向を取り入れた支援に努めている。また、体調に応じて、看護師と相談しながら、清拭やシャワー浴、足浴等に切り替え、負担にならないよう、一人ひとりに応じた支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の生活のリズムを作っている。 寝付けない利用者には、夜間、職員との会話で安心してもらう。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが薬局からの処方説明書を見て、学習に努めている。 訪問薬剤師の説明を聞き、理解を深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせて役割を見つけ、職員と作業をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の天候に合わせて、散歩を実行している。 小さな畑の収穫を楽しみ、地域住民と出会いを大切にしている。	日々のコミュニケーションの中から、利用者の希望を把握しており、外出行事の他、希望に沿って通院の帰りに買い物をしたり、畑に出向く等、日常的に外出を行っている。また、墓参り等、必要に応じて、家族とも相談しながら実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる人によるが、お小遣いとして財布を身につけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務室の電話を使えるようにしている。 家族からの電話は子機を使用して、自室で話せるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気になるように努めている。	共用スペースは清潔な印象で、吹き抜けからは自然光が取り入れられている。U字型のテーブルはどこの席からも利用者が見え、調度品等は家庭的であり、室内の物音や温度・湿度等も適切に調整されている。また、季節を感じるができるよう、ススキ等の月見の花が生けられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ、ソファ椅子、テーブルを設け、利用者同士の憩いの場を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた家具や仏壇が持ち込まれている。	居室には、車いすでも利用しやすい洗面台・ベッド・整理タンス等が設置されている他、入居時に、馴染みの物を持参していただくように働きかけ、テレビや家族写真等が持ち込まれている。また、行事写真や手作りの作品を飾る等、一人ひとりに合った居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりが自立できるよう、支援に努めている。		